

# 介護老人保健施設しおん

**症 例 概 要**      利用者氏名：T・E様（女性・90代）    介護度3  
利用期間：平成30年11月下旬～現在  
経過：平成30年9月、慢性心不全の増悪・誤嚥性肺炎にて石巻赤十字病院に入院。10月、経過良好にて石巻健育会病院へ転院。11月、療養・リハビリ目的でしおん入所。  
認知症利用者が初めての施設生活の中で毎日の習慣を思い出し活動、その他自身の役割や楽しみを見つけ充実した施設生活をするにより中核症状と周辺症状の改善が出来たチームケアの事例報告を致します。

## 内 容

T様は入所当初、認知症の中核症状として記憶障害・見当意識障害などがあり、ご自分が何処にいるのか理解出来ず落ち着かない様子が見られ、10分おきにフロア内を歩行する行動がありました。ADLは問題なく、フロア内歩行も自立で行っていましたが、記憶障害の症状から他者の席を自分の席だという等の対人トラブルが多々発生し、その後は職員が付き添って歩行することになりました。今までは独居生活で自由だったせい、職員が付く事を嫌がり職員に暴言もありました。そして夜間帯にユニット入口が施錠になると興奮しドアを叩く等の暴力行為、職員に暴言等の周辺症状が出てきました。このままの対応ではストレスを与えてしまい、症状が悪化してしまうのではないかと担当介護士からの提案があり、介護士・ケアマネージャ・理学療法士とカンファレンスを開催し、

- ①日中自由に2階フロアを散歩できる環境を作る為に、PTと他ユニット職員にも所在確認依頼と対人トラブルの報告と周知依頼
- ②自宅で毎日していた日記を施設でも書いてもらう
- ③好きな体操や運動の取り組み
- ④毎日の役割として字を書く事を活かしたメニュー書き、更にタオル畳みと新聞畳み

の1日の取り組み計画を立て実行しました。

自由に散歩できるようになると職員に「今から行ってくるから」と声を掛けてくれるようになり、何度も散歩に行きますが、とても笑顔ではつらつとしています。徐々に対人トラブルもなくなりました。日記をつける様になると記憶障害はありますが、その日記を振り返り読んで思い出すことができるようになりました。

以前は「今日は何日?」と確認をしていましたが、現在は逆に「今日はカレンダー捲ないの?」と教えてくれます。嬉しいことがあると、こっそり私達に日記を読ませてくれます。体操も率先し身体を動かすようになると空腹を訴える事が増え、メニューを書く作業により食べたいという願望も強く出てきました。入所時は誤嚥性肺炎という理由で嚥下食でしたが「足りない」と訴えがあり言語聴覚士と看護師に判断依頼し、12月中旬には軟菜・全粥にアップ、1月上旬には米飯までアップし、毎日の食時を楽しみにメニューを書いています。

毎日の習慣を実行する事で中核症状の回避ができ、ご本人らしく生活する事でストレスの解消となり、暴言等の周辺症状が改善。当初は全く考えていなかった食時形態のアップまででき、今では日中充実した生活で夜間はぐっすり眠れています。ご本人も「私元気なの、いつまでここに居るのかしら?」と笑いながら話してくれます。

私達は今後もT様が充実した施設生活を送られるようにチームで支援していきたいと思えます。